

千葉工業大学
環境報告書 2017

CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY ENVIRONMENTAL REPORT



千葉工業大学 安全委員会

目次 CONTENTS

CHAPTER

1

学長のことば

CHAPTER

2

大学の概要

CHAPTER

3

環境方針

CHAPTER

4

環境配慮の 取り組み状況

APPENDIX

付録

1	設置する学部学科等	1
2	大学の沿革	2
3	事業内容	2
4	キャンパス概要	3
1	基本理念	6
2	基本方針	6
3	環境報告の方針	6
1	環境負荷収支	7
	環境負荷収支	7
	電気・ガス・水道の使用状況の把握(過去5年間の推移)	7
2	環境基本方針に基づく取り組み	9
	節電活動	9
	キャンパス内全面禁煙の実施	9
	地域における環境、防災の役割と責任	9
	災害発生時の対応マニュアルの作成	10
	行政支援、市民環境活動への参加	10
	環境報告書の発行と公開	10
	エネルギー定期報告書	11
3	環境保全と改善	11
	省エネ設備の導入	11
	再生可能エネルギーの利用	12
	雨水の利用	13
	井戸水の利用	13
	有害廃棄物の管理・回収	13
	屋上緑化の推進	14
	校内緑化の推進	14
	物質収支詳細データ (津田沼・新習志野キャンパス、学生寮、茜浜運動施設、旧学生寮)	15
	総計	18

学長のことば

近年、日本をはじめ世界の多くの国が豪雨災害に見舞われています。その原因は、温室効果ガスの大量放出による地球温暖化がもたらす気候変動であるとも言われています。20年前の秋に英国で経験したことです。突然黒い雨雲が垂れ込めスコールのような雷雨になったと思ったら、1時間もしないうちに雨が上がり虹が出ました。英国人の学生もこんな天気を経験したのは初めてだと驚いていました。翌年の5月には平年の1年間の降水量に相当する雨が僅か2週間で降り、近くを流れ北海に注ぐグレート・ウーズ川が氾濫しました。気候変動はその頃から既に始まっていたのだと思います。環境破壊、地球温暖化、自然災害などの問題は一国だけで解決できるものではありません。これらの解決のためには、地球規模での持続可能性を視野に、旧来の垣根を超えた協調と連携により全人類が協力して取り組まなければなりません。

千葉工業大学は、「地球環境保全が人類共通の最重要課題のひとつであると認識し、未来世代とともに地球環境を共有するため、持続型社会の創生に貢献し、教育研究機関としての使命役割を果たす」という基本理念のもと、さまざまな環境保全のための活動に取り組んでいます。

更に、千葉工業大学は、環境保全への取り組みに対する社会的説明責任を果たすために、大学の概要、環境方針、環境基本方針に基づく取り組み等を環境報告書として取りまとめ公表致します。これは、本学の環境保全に向けた取り組みの自主的改善とともに、社会から信頼を頂くために大いに役立つと考えます。そして、教職員、学生及び御父母の皆様、産業界あるいは官公庁の皆様、高等学校関係者の皆様、地域の皆様等、本学に関係する方々に有用な情報を提供するものとして御活用頂けると考えます。

本書により千葉工業大学の環境保全への取り組みについて御理解を頂くと共に、環境保全のレベルアップに役立つ御意見・アイディア等をお寄せくださいますよう宜しくお願い申し上げます。

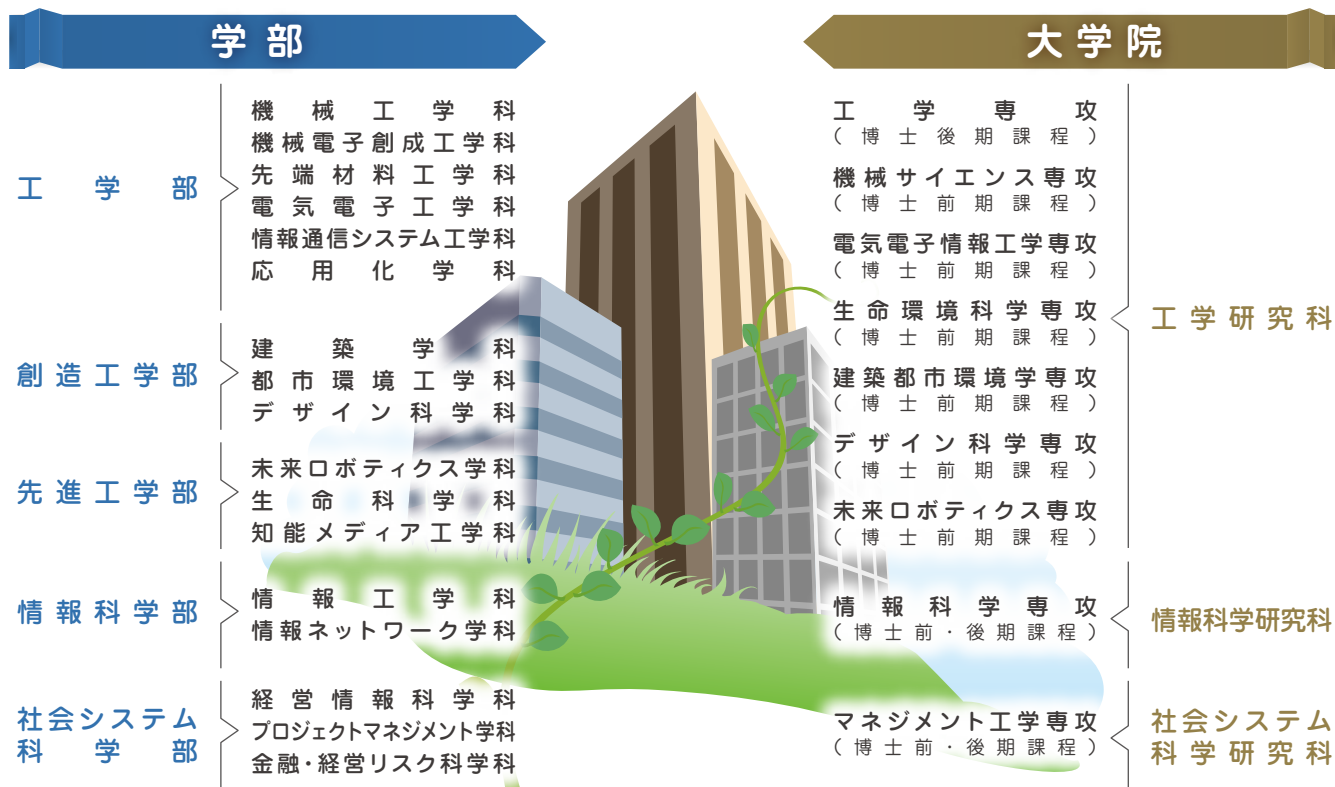


千葉工業大学 学長

小宮 一仁

大学の概要

1 設置する学部学科等



2 大学の沿革

本学は、1942年(昭和17年)に「興亜工業大学」の名称で現在の玉川大学内に誕生しました。その後、1946年に千葉県君津への移転を契機に「千葉工業大学」に改称し、1949年に津田沼に移転、元陸軍鉄道第二連隊施設の払い下げを受け、現在の津田沼キャンパスとなりました。

1986年に芝園キャンパス(現新習志野キャンパス)が完成。以後新習志野キャンパスでは学部の1・2年生、津田沼キャンパスでは学部3・4年生及び大学院の教育を行っています。現存する私立の工科系大学としては日本で最も古い歴史を持つ大学です。

3 事業内容

本学は、1942年(昭和17年)に創設され、2012年に70周年を迎えました。2016年度からは、「工学部」を「工学部」・「創造工学部」・「先進工学部」の3学部に変更し、現在は5学部を有する理工系総合大学です。

創立時から「師弟同行」、「自学自律」を建学の精神として掲げてきましたが、創立70周年を契機として当時の設立趣意書を改めて見直し、その表現を「**世界文化に技術で貢献する**」と改めました。さらに、「科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え、人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材の養成」を教育目的とし、師弟同行、師弟共生の教育をもって、次に掲げる5つの教育目標を定め、教育目的を達成するための実践的教育を推し進めています。



大学院では、学部教育の基礎の上に、工学における理論及び応用を教授・研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的として教育・研究を行っています。

また、学生教育の他、産官学交流プロジェクト、社会や地域に還元するプロジェクトなども併せて推進し、留学生の受け入れ、連携大学院との交流も総合的に推進しています。

4 キャンパス概要

場 所

津田沼キャンパス
(3・4年生、大学院生)

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2-17-1

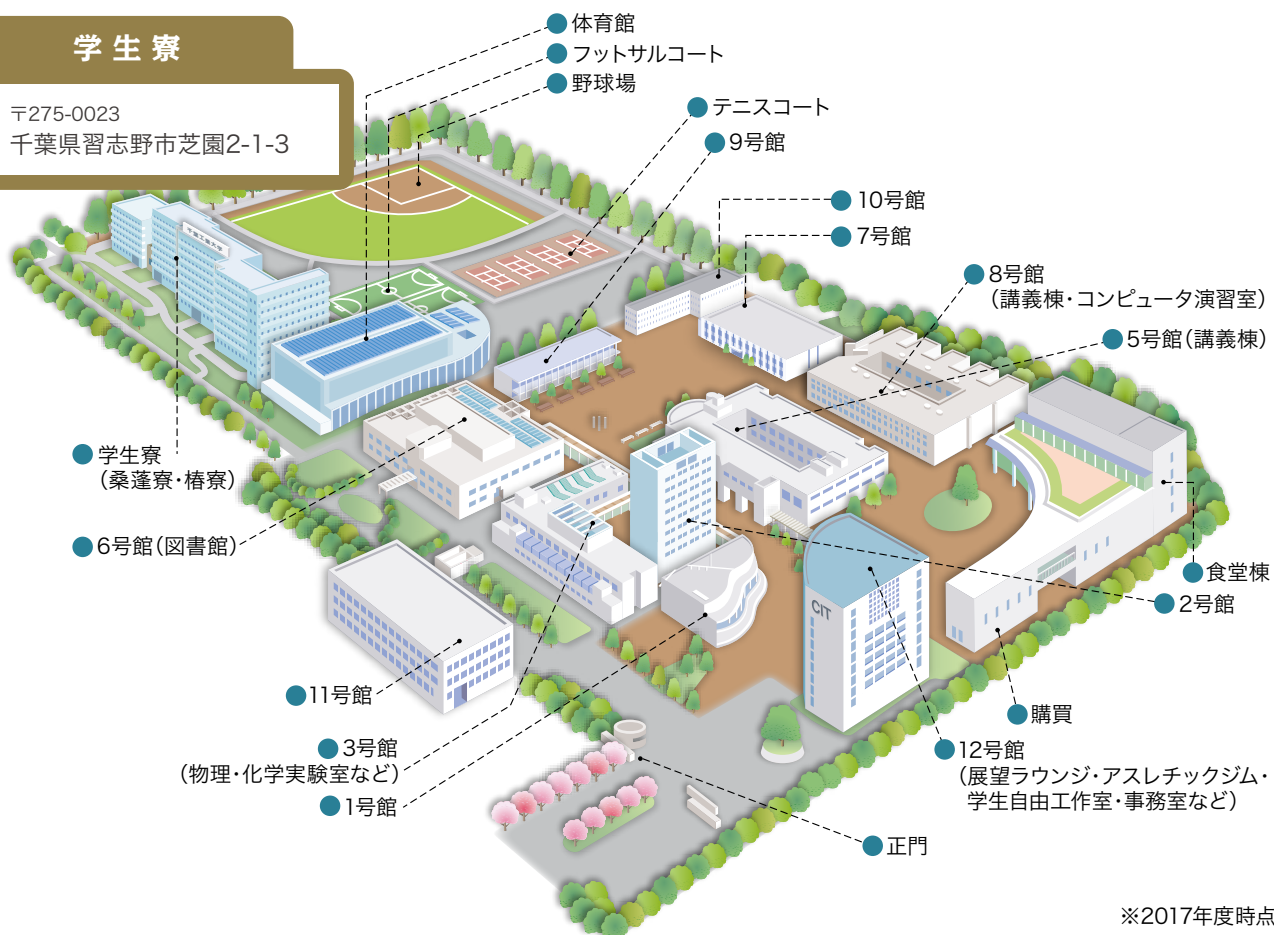


新習志野キャンパス (1・2年生)

〒275-0023
千葉県習志野市芝園2-1-1

学生寮

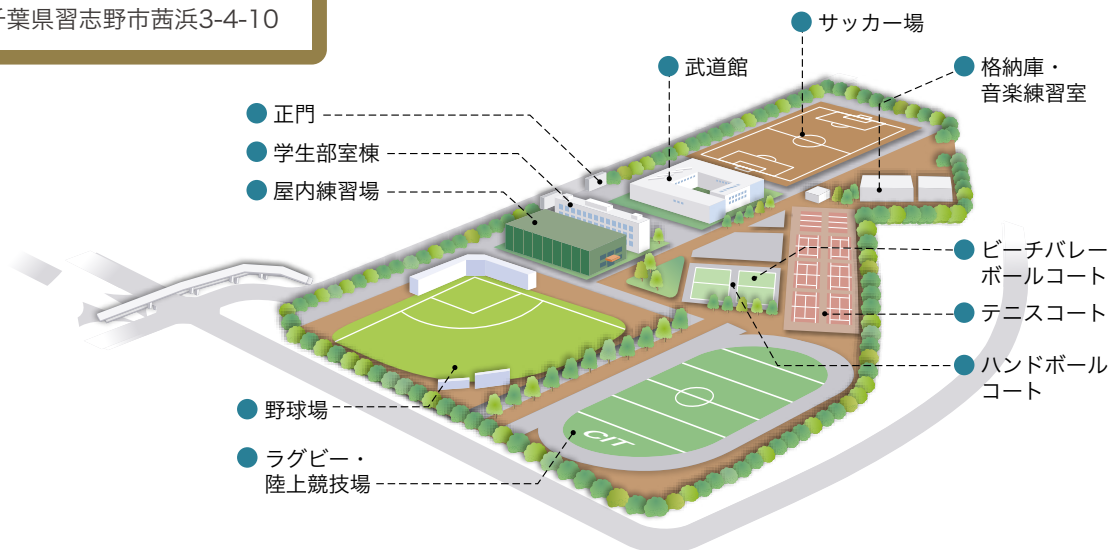
〒275-0023
千葉県習志野市芝園2-1-3



※2017年度時点

茜浜運動施設

〒275-0024
千葉県習志野市茜浜3-4-10



学 生 数

津田沼キャンパス

学部学生

4,523人

男性 3,913人 女性 610人

大学院生

544人

男性 451人 女性 93人

新習志野キャンパス

学部学生

4,745人

男性 4,070人 女性 675人



※2017年5月1日時点

教 職 員 数

専任教員

283人

男性 254人 女性 29人

専任職員

176人

男性 121人 女性 55人

専任研究員

44人

男性 42人 女性 2人



※2017年5月1日時点



環境方針

1 基本理念

千葉工業大学は、地球環境保全が人類共通の最重要課題のひとつであると認識し、未来世代とともに地球環境を共有するため、持続型社会の創生に貢献し、教育研究機関としての使命役割を果たします。

2 基本方針

1 人材の育成と 関連研究の推進

環境マインドを備えた創造性豊かな人材を育成し、これに関わる研究活動を行い、技術で世界文化に貢献します。

2 環境負荷の低減

大学運営における環境負荷を低減するため、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、再資源化に取り組みます。

3 キャンパスの 環境保全と改善

本学キャンパスの環境と景観の維持・向上に努めるとともに、地域における環境、防災の役割を認識して、その責任を果たします。

4 環境関連情報の公開と コミュニケーションの推進

ホームページ等を通じて、環境関連情報を学内外に積極的に公開します。また、環境保全に関わる教育プログラムの実施、行政支援、市民環境活動への参加等、社会貢献活動と環境コミュニケーションを推進します。

5 法規制等の遵守

環境関連の法規制等を遵守し、行動します。

6 環境マネジメント システムの構築

理工系総合大学として、先進的な環境マネジメントシステムを構築し、効果的運用と継続的改善に努めます。

3 環境報告の方針

環境報告の事業年度は、学生の入学・卒業に合わせ、毎年4月から翌年3月としています。また、対象範囲は、津田沼・新習志野両キャンパスならびに茜浜運動施設や寮生の生活基盤となっている学生寮(新習志野キャンパスと隣接)とします。

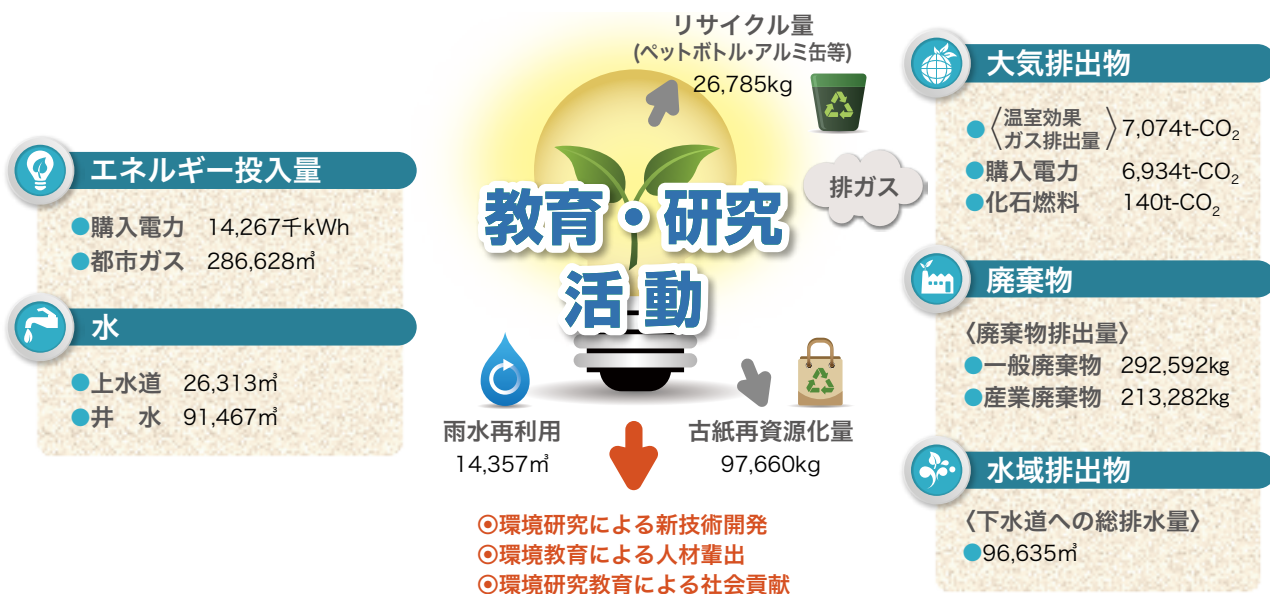
2017年度の環境報告書では、本学の環境関連情報を集約し、本学の在学生、教職員、および学外の皆様と共有することを主な目的とします。

環境配慮の取り組み状況

1 環境負荷収支

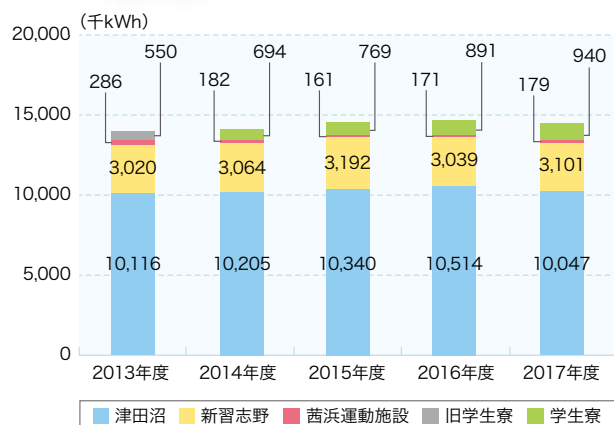
環境負荷収支

本学では、主な活動となる教育（人材育成）活動及び最先端の研究活動に伴い、多くのエネルギーと様々な物質を消費しています。エネルギーは主に電力とガスです。出来るだけ環境負荷の少ない事業活動を実践するため、日々努力を続けています。

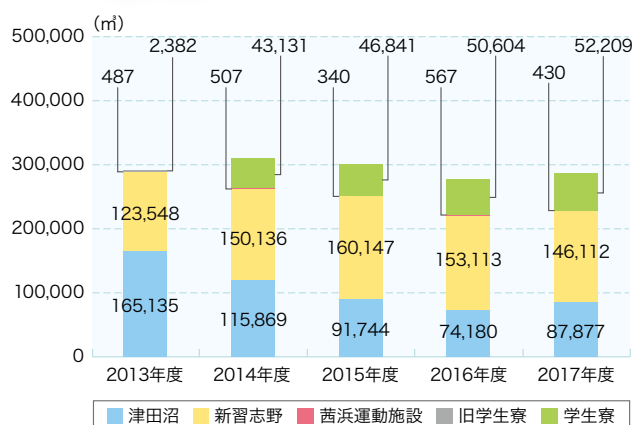


電気・ガス・水道の使用状況の把握（過去5年間の推移）

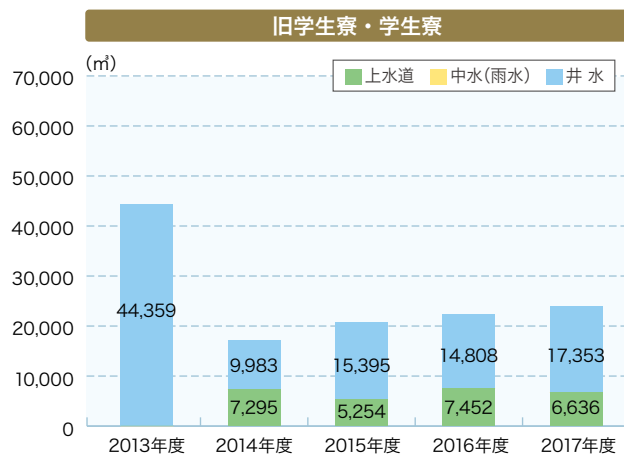
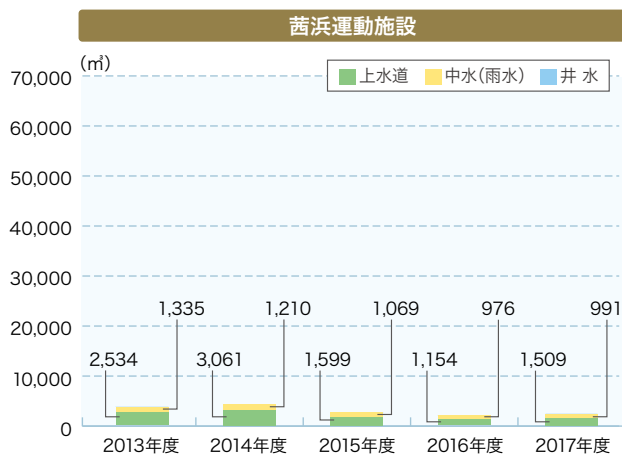
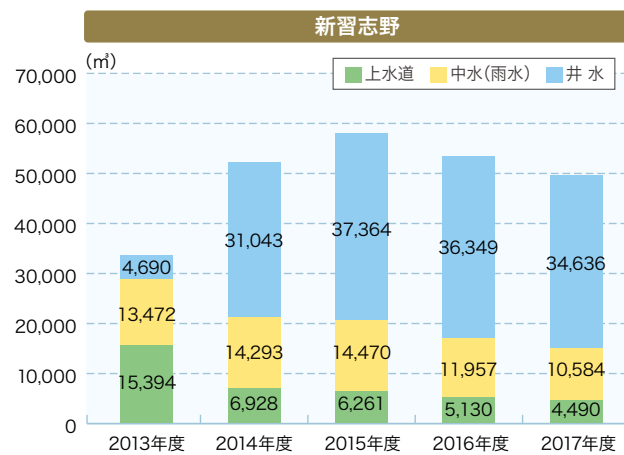
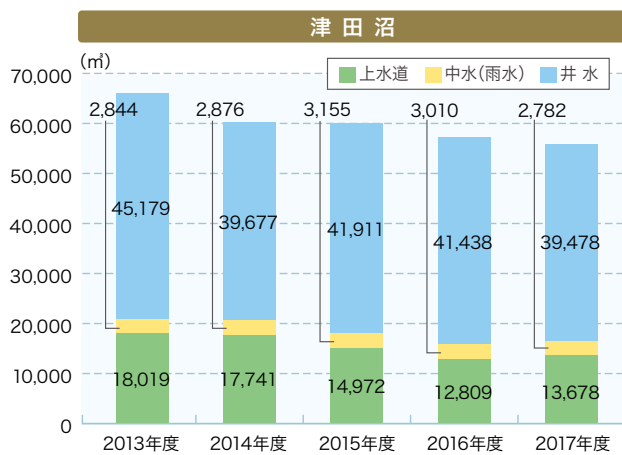
電気



ガス



水道



←旧学生寮→ ←学生寮→
 ※2014年度から学生寮が新習志野キャンパスへ移設されております。



2 環境基本方針に基づく取り組み

節電活動

東日本大震災後の電力供給不足による節電の要請に対応し、2011年度は電力使用制限の発動があり削減目標15%の節電に取り組み、2012年度以降も節電に取り組んでいます。特に電力消費量が多い夏期期間には、次のような様々な対策を実施しています。空調温度の制限、照明の間引き、電化製品の使用自粛、エレベーターの使用を控え階段による移動、各施設のピーク時のエリア縮小や閉鎖等の対策を、全学を挙げて取り組んでおります。また、意識啓発のための職員による節電パトロールを実施しています。〈実施期間：2017年7月1日～9月30日〉

キャンパス内全面禁煙の実施

本学は、これまで受動喫煙防止の観点から、学内に設置していた喫煙所を縮小してきました。2010年8月には建物内を全面禁煙とし、屋外についてもキャンパス再開発に合わせて順次縮小し、2015年度からは、健康増進法の趣旨に従い、受動喫煙防止への取り組みをさらに強化することとし、津田沼・新習志野両キャンパスで敷地内全面禁煙を実施しました。

この取り組みは喫煙場所を学外に移すということではなく、喫煙者に対して健康被害に関する認識を高めさせ、卒煙を促すことを主眼としています。禁煙に関する講習会の開催やパンフレットの配布をはじめ、様々な禁煙対策を講じ、卒煙に向けて活動を進めていきます。



地域における環境、防災の役割と責任

東日本大震災発生時に津田沼駅周辺に多くの帰宅困難者が発生し、大混乱となりました。これを教訓として、習志野市を中心に本学を含む周辺事業所間で大災害発生時における帰宅困難者対策を協議し、本学は大災害発生時に津田沼駅周辺に発生する帰宅困難者を一時的に学内に受け入れる協定を2013年3月に習志野市と締結しました。大災害発生時には習志野市や周辺事業所と協力して、帰宅困難者の受入を実施し、安全な避難場所を提供するとともに、水・食料を提供し、一昼夜安全な環境を提供します。

2016年11月6日(日)に「平成28年度帰宅困難者対策訓練」を習志野市が実施し、本学は維持地滞在施設として帰宅困難者の受け入れに際し市と連携して実施した際に、本学は市と連携して維持地滞在施設として帰宅困難者の受け入れをしました。



2011年3月11日の東日本大震災の際には、数多くの地域住民の方々へ避難場所を提供いたしました。

災害発生時の対応マニュアルの作成

大災害が発生した場合、大学には多くの学生と周辺からの避難者で混乱することが想定されます。そのような混乱状態をいち早く解消し、キャンパス内を安全な空間とするため、「大地震発生時の避難誘導マニュアル」を作成し、教職員に周知しています。

また、学生には「防災対応マニュアル」を周知し、日頃から防災意識を高め、「いざ」という時にどのように行動すべきかを周知しています。

URL https://www.it-chiba.ac.jp/support/support/disaster_manual/



行政支援、市民環境活動への参加

地域の環境改善への取り組みとして、津田沼キャンパスから新習志野キャンパスの間を歩いてゴミ拾いをするクリーンウォークを2008年から実施しています。現在は本学学生と教職員で実施していますが、今後は地域との連携を検討していく予定です。



環境報告書の発行と公開

2013年より、本学が行っている様々なエネルギー消費状況や環境問題への取り組みを報告書として作成し、ホームページで公開しています。

URL

<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/environment/>



エネルギー定期報告書

エネルギー使用の合理化等に関する法律(省エネ法)に基づき、経済産業省並びに文部科学省に次の定期報告書を毎年提出しています。

- ①第一種エネルギー管理指定工場(津田沼キャンパス)定期報告書
- ②津田沼キャンパス・新習志野キャンパス・各研修センター・スカイツリータウンキャンパスを合計した特定事業者定期報告書
- ③中長期計画書

2009年には文部科学省の「大学等のエネルギー管理指定工場実地調査」を受検し、評価点:80点以上と評価されました。

- ◎1979年 省エネ法 制定
- ◎2003年 津田沼キャンパスが第二種(燃料等(電気))に指定を受けた
- ◎2005年 法改正 第3回気候変動枠組条約国会議 COP3(京都議定書の発効)
- ◎2009年 津田沼キャンパスが第一種に指定を受けた
- ◎2010年 特定事業者として全体が指定を受けた
- ◎2015年 第21回気候変動枠組条約国会議 COP21(パリ協定)

3 環境保全と改善

省エネ設備の導入

本学では、空調設備の経年劣化による更新において、各建物の運用の状況等に応じた高効率機器と、きめ細かな制御を可能とする中央監視装置を積極的に導入しています。この中央監視装置は空調設備の他、電気設備、給排設備等の機能の自動化や不具合の監視・記録をコンピューターに集約させた装置で、省エネに大きく貢献しています。

また、新築各棟では主に共用部分での照明器具はLED照明を採用しており、2011年度に完了した津田沼キャンパス4号館の改修工事では、ほぼ全館の照明器具をLED照明に取り替えました。以降、既存棟についても順次LED照明化を進めています。津田沼キャンパス7号館も全館LED化に向けて4階の講義室から更新を行い、2017年度には3階の講義室をLED化しました。更に同キャンパスの6号館全館についてもLED化しました。新習志野キャンパスについては、2015年度から2ヵ年計画で8号館(第2講義棟)の講義室をLED化しました。



空調機器



LED照明

再生可能エネルギーの利用

本学では、新築や改修工事の中で、積極的に太陽光発電等の設備を導入し、自然エネルギーの利用促進を図っています。現在、合計254kWの太陽光発電設備と7kWの風力発電設備を設置しています。当該設備を設置した建物には、1階に発電量やCO2削減量、総積算発電電力量等のデータをリアルタイムに表示するモニターを設置し、学生、教職員および来客に取り組みの内容を周知しています。2015年度には、新習志野キャンパスに新築した新体育館に、122kWの大規模な太陽光発電設備を設置しました。



太陽光発電のモニタ画面



風力発電のモニタ画面



4号館屋上の太陽光発電設備



7号館屋上の太陽光発電設備



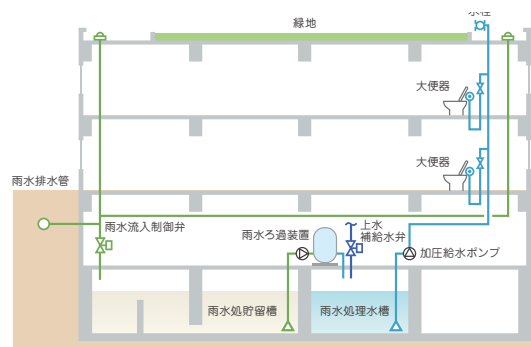
6号館屋上の風力発電設備

❖再生可能エネルギー

種 類	設置場所		発電出力	2017年度発電量	設置年度
太陽光	津田沼キャンパス	1号館	15kW	16,074kWh	2010年度
	//	4号館	54kW	67,862kWh	2011年度
	//	7号館	15kW	23,251kWh	2012年度
	//	8号館	6kW	8,269kWh	2014年度
	新習志野キャンパス	6号館	42kW	58,222kWh	2012年度
	//	新体育館	122kW	148,854kWh	2015年度
風 力	津田沼キャンパス	6号館	7kW	665kWh	2013年度
合 計			261kW	323,197kWh	

雨水の利用

津田沼キャンパスの1号館・2号館は屋根に降った雨水を集水し、処理をした上で、同建物のトイレの洗浄水等に利用しています。新習志野キャンパスでは、キャンパス全体(7～11号館を除く)で、津田沼キャンパスと同様に雨水を利用する雑用水配管設備が整備されています。



井戸水の利用

2014年度より、学生寮が運用開始となり使用水量が大きくなるのを契機に、新習志野キャンパスに処理プラントを設置し、井戸水を飲料水として利用することになりました。津田沼キャンパスは、それより10年先行し、2004年度より同様の処理プラントが稼働中です。これにより、新習志野キャンパスでは、上水道使用量が半分に以下に減少しました。また処理に要した排水を雨水とともに雑用水に利用しています。今後は、両キャンパスとも、災害時の飲料水確保の対策として有効に利用できるよう検討していく予定です。



有害廃棄物の管理・回収

津田沼キャンパスでは、実験室及びラボより廃棄される実験廃液・廃試薬等は、施設課(水質分析室)で委託を受け、廃棄物保管室で一時保管後、定期的(年6回程度)に処理をしています。

新習志野キャンパスでは、実験廃液庫で一時保管後、定期的(年2～3回程度)に処理をしています。

▼廃液ポリタンク



テープ
無機：青
有機：黄

委託票

▼有・無機系廃液 処理委託票



▼滅菌類・固形廃棄物
及び廃試薬・試薬空
瓶委託票



▼滅菌類・廃試薬
用段ボール



▼廃棄物(廃液・廃試薬・試薬空瓶)保管室



屋上緑化の推進

2010年に、津田沼キャンパス6号館の屋上約900㎡に、多肉植物系(セダム)の屋上緑化を実施しました。津田沼2号館低層棟5階屋上及び新習志野新食堂棟3階に軽量土を使用し低木を植えています。断熱効果による空調負荷の低減と、植物の二酸化炭素吸収という環境効果があります。



津田沼6号館の屋上緑化

校内緑化の推進

キャンパス再開発や震災復旧工事に伴い、キャンパス外周や構内通路の積極的な緑化を推進した結果、現在では駅前立地ながら緑豊かなキャンパスとなっています。

津田沼キャンパス



新習志野キャンパス



物質収支詳細データ (津田沼・新習志野キャンパス、学生寮、茜浜運動施設、旧学生寮)

津 田 沼	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電 力	kWh	10,115,586	10,204,794	10,340,290	10,514,314	10,046,854
灯 油	L	1,807	1,484	1,703	1,529	977
A 重油	L	—	—	—	—	—
LPG	m³	0	0	0	0	0
都市ガス	m³	165,135	115,869	91,744	74,180	87,877
上水道	m³	18,019	17,741	14,972	12,809	13,678
中 水 (雨水)	m³	2,844	2,876	3,155	3,010	2,782
井 水	m³	45,179	39,677	41,911	41,438	39,478
上質紙 (OA 用紙等)	kg	1,000	3,110	2,700	3,300	2,400
新聞・雑誌・ダンボール	kg	43,000	49,800	47,100	50,200	43,100
その他の紙類	kg	2,500	3,800	4,000	4,100	2,800
機密書類	kg	1,000	7,100	15,600	4,800	15,600
空きビン・空き缶	kg	7,000	11,000	10,500	9,100	8,000
厨芥類 (残飯・生ごみ)	kg	125,000	128,800	130,400	127,800	137,200
ペットボトル	kg	9,000	10,400	12,900	11,700	10,260
産廃 (汚泥)	kg	13,367	33,058	24,222	20,618	20,886
産廃 (廃油)	kg	10,746	11,321	12,624	8,572	6,952
産廃 (廃酸)	kg	10	2	128	2	2
産廃 (廃アルカリ)	kg	5	60	164	10	0
産廃 (廃プラスチック類)	kg	15,278	1,542	1,434	1,393	1,370
産廃 (木くず)	kg	0	0	0	0	6,600
産廃 (金属くず)	kg	232	209	304	399	6,334
産廃 (ガラス・コンクリート・陶磁器)	kg	189,012	107,240	123,712	101,885	126,815
産廃 (引火性廃油)	kg	337	91	122	31	33
産廃 (引火性廃油 (有害))	kg	12	1	1	1	0
産廃 (強酸)	kg	23	11	97	1	3
産廃 (強アルカリ)	kg	81	2	62	1	2
産廃 (廃油 (有害))	kg	3	1	1	1	1
産廃 (汚泥 (有害))	kg	8	8	10	1	1
産廃 (廃酸 (有害))	kg	3,960	4,961	3,581	4,341	4,661
産廃 (廃アルカリ (有害))	kg	0	0	0	720	160
産廃 (感染性廃棄物)	kg	0	0	3	0	0
下 水	m³	53,717	51,435	49,504	48,594	48,092

新習志野	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電 力	kWh	3,020,138	3,064,067	3,191,784	3,039,249	3,100,986
灯 油	L	0	0	0	0	60
A 重油	L	0	0	0	0	0
LPG	m³	0	0	0	0	0
都市ガス	m³	123,548	150,136	160,147	153,113	146,112

新習志野	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
上水道	m ³	15,394	6,928	6,261	5,130	4,490
中 水（雨水）	m ³	13,472	14,293	14,470	11,957	10,584
井 水	m ³	4,690	31,043	37,364	36,349	34,636
新聞・雑誌・ダンボール	kg	2,700	3,900	9,000	21,850	21,947
機密書類	kg	2,700	3,600	3,600	5,100	4,080
空きビン・空き缶	kg	未報告	未報告	未報告	1,687	1,601
厨芥類（残飯・生ごみ）	kg	5,200	24,200	29,300	2,600	2,992
ペットボトル	kg	未報告	未報告	未報告	5,454	5,772
可燃物・不燃物 （木片・木の葉・金属・ガラス等）	kg	55,500	59,900	78,900	103,800	77,800
産廃（汚泥）	kg	11,000	11,120	17,961	26,840	21,704
産廃（廃油）	kg	784	396	549	16	270
産廃（廃酸）	kg	1,518	1,650	3,325	0	1,950
産廃（廃アルカリ）	kg	80	0	45	0	22
産廃（廃プラスチック類）	kg	393	1,150	4,755	44	5,620
産廃（木くず）	kg	0	0	4,400	0	0
産廃（金属くず）	kg	18	22	24	15	6,808
産廃（ガス・コンクリート・陶磁器等）	kg	120	85	183	80	77
産廃（引火性廃油）	kg	775	527	266	240	360
産廃（引火性廃油（有害））	kg	0	527	0	0	0
産廃（強酸）	kg	0	0	0	1	1
産廃（強アルカリ）	kg	0	0	0	0	0
産廃（廃油（有害））	kg	1	0	0	2	0
産廃（汚泥（有害））	kg	0	0	0	0	0
産廃（廃酸（有害））	kg	2,326	2,925	3,702	1,800	2,650
産廃（廃アルカリ（有害））	kg	0	0	0	0	0
下 水	m ³	28,916	22,406	30,727	25,817	24,554

学生寮	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電 力	kWh		694,200	768,700	891,200	940,000
灯 油	L		0	0	0	0
A 重油	L		0	0	0	0
LPG	m ³		0	0	0	0
都市ガス	m ³		43,131	46,841	50,604	52,209
上水道	m ³		7,295	5,254	7,452	6,636
中 水（雨水）	m ³		0	0	0	0
井 水	m ³		9,983	15,395	14,808	17,353
新聞・雑誌・ダンボール	kg		校舎に含む	校舎に含む	4,850	7,733
機密書類	kg		0	0	0	0
空きビン・空き缶	kg		未報告	未報告	268	323
厨芥類（残飯・生ごみ）	kg		校舎に含む	校舎に含む	18,200	21,000
空きビン・空き缶	kg		未報告	未報告	601	789
可燃物・不燃物 （木片・木の葉・金属・ガラス等）	kg		校舎に含む	校舎に含む	55,800	53,600
下 水	m ³		17,278	20,649	22,260	23,989

茜浜運動施設	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電 力	kWh	285,860	182,335	161,221	171,153	178,945
灯 油	L	0	0	0	0	0
A 重油	L	0	0	0	0	0
LPG	m ³	0	0	0	0	26
都市ガス	m ³	487	507	340	567	430
上水道	m ³	2,534	3,061	1,599	1,154	1,509
中 水（雨水）	m ³	1,335	1,210	1,069	976	991
井 水	m ³	0	0	0	0	0
下 水	m ³	0	0	0	0	0

旧 学 生 寮	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電 力	kWh	549,798				
灯 油	L	340				
A 重油	L	60,200				
LPG	m ³	2,382				
都市ガス	m ³	0				
上水道	m ³	0				
中 水（雨水）	m ³	0				
井 水	m ³	44,359				
下 水	m ³	45,515				

総 計

年 度	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電 力	kWh	13,971,382	14,145,396	14,461,995	14,615,916	14,266,785
灯 油	L	2,147	1,484	1,703	1,529	1,037
A 重油	L	60,200	0	0	0	0
LPG	m ³	2,382	0	0	0	26
都市ガス	m ³	289,170	309,643	299,072	278,464	286,628
上水道	m ³	35,947	35,025	28,086	26,545	26,313
中 水 (雨水)	m ³	17,651	18,379	18,694	15,943	14,357
井 水	m ³	94,228	80,703	94,670	92,595	91,467

年 度	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
上質紙 (OA 用紙等)	kg	1,000	3,110	2,700	3,300	2,400
新聞・雑誌・ダンボール	kg	45,700	53,700	56,100	76,900	72,780
その他の紙類	kg	2,500	3,800	4,000	4,100	2,800
機密書類	kg	3,700	10,700	19,200	15,000	19,680
古紙資源化量 - 計	kg	52,900	71,310	82,000	99,300	97,660

年 度	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
空きビン・空き缶	kg	7,000	11,000	10,500	11,055	9,924
ペットボトル	kg	9,000	10,400	12,900	17,755	16,821
リサイクル量 - 計	kg	16,000	21,400	23,400	28,810	26,745

年 度	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
厨芥類 (残飯・生ごみ)	kg	130,200	153,000	159,700	172,000	161,192
可燃物・不燃物 (木片・木の葉・金属・ガラス等)	kg	55,500	59,900	78,900	159,600	131,400
一般廃棄物 - 計	kg	185,700	212,900	238,600	331,600	292,592

年 度	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
産廃 (汚泥)	kg	24,367	44,178	42,183	47,458	42,590
産廃 (廃油)	kg	11,530	11,717	13,173	8,588	7,222
産廃 (廃酸)	kg	1,528	1,652	3,453	2	1,952
産廃 (廃アルカリ)	kg	85	60	209	10	22
産廃 (廃プラスチック類)	kg	15,671	2,692	6,189	1,437	6,990
産廃 (木くず)	kg	0	0	4,400	0	6,600
産廃 (金属くず)	kg	250	231	328	414	13,142
産廃 (ガラス・コンクリート・陶磁器)	kg	189,132	107,325	123,895	101,965	126,892
産廃 (引火性廃油)	kg	1,112	618	388	271	393
産廃 (引火性廃油 (有害))	kg	12	528	1	1	0
産廃 (強酸)	kg	23	11	97	2	4
産廃 (強アルカリ)	kg	81	2	62	1	2
産廃 (廃油 (有害))	kg	4	1	1	3	1
産廃 (汚泥 (有害))	kg	8	8	10	1	1
産廃 (廃酸 (有害))	kg	6,286	7,886	7,283	6,141	7,311
産廃 (廃アルカリ (有害))	kg	0	0	0	720	160
産業廃棄物 - 計	kg	250,089	176,909	201,672	167,014	213,282

年 度	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
下 水	m ³	128,148	91,119	100,880	96,671	96,635

千葉工業大学 環境報告書 2017

発 行 者 : 千葉工業大学安全委員会 (橋本都子委員長)

発行年月 : 2019 年 2 月

作 成 者 : 安全委員会環境報告書作成ワーキンググループ
(清水 邦康、吉岡 志郎)

問合せ先 : 学校法人 千葉工業大学 総務部総務課

〒 275-0016 千葉県習志野市津田沼 2 - 17 - 1

電 話 : 047 - 478 - 0208

E-mail : soumu@p.chibakoudai.jp



 千葉工業大学
Chiba Institute of Technology

URL <https://www.it-chiba.ac.jp>